国際ビジネス研究学会第 29 回年次大会自由論題報告

【D－③】

ASEAN 多国籍企業の国際化戦略と競争優位に関する研究

牛山隆一（専修大学）

本研究は、東南アジア諸国連合(ASEAN)主要国に本拠地を置く多国籍企業を対象に据え、それらの国際化戦略及び競争優位の実態について分析を試みる。ASEAN 多国籍企業(ASEAN multinational enterprises: AMNEs)は 2010 年代以降、国際化を加速し、新興国の対外・外国直接投資(FDI)の新たな担い手となった。だが、2000 年代以降に活発化した新興市場(国)多国籍企業(Emerging Market Multinational Enterprises: EMNEs)に関する研究では、中国やインドなど BRICs 企業が主要な対象とされ、AMNEs はあまり取り上げられていない。AMNEs は多国籍化に弾みが付いた時期が BRICs 企業の 2000 年代に比べ 2010 年代と遅いうえに、BRICs 企業よりも相対的に「中小規模」の企業が少なくない。このように AMNEs は「後発」、「中小規模」という、いわば 2 つのハンディを抱えながら国際化の道を進んでおり、その国際化の実態は EMNEs 研究の主役である BRICs 有力企業とは異なる可能性が高い。このような問題意識から、本研究では「新 EMNEs」とも呼び得る企業群である AMNEs を幅広く対象とし，それらの国際化の特徴を浮かび上がらせる。具体的には，国際化戦略では中小業種に属する AMNEs はグローバル展開、大業種に属する AMNEs はリージョナル展開を指向する。また、競争優位に関しては，国内での強さという共通の基盤に加え、グローバル型は「非伝統的 FSAs」、リージョナル型は ASEAN 企業が持つ独自の優位性である「RSAs」をそれぞれ強みに事業を展開しているとの見方を示す。